

ZSプロジェクト-学術成果の拡大

筑波大学図書館情報メディア
研究科・社団法人日本動物学会
事務局長
永井裕子

プロジェクト概要

- 機関リポジトリに限定的に着目した文献引用向上効果に関する調査・研究のための、文献蓄積及びデータ整理を行うもの

機関リポジトリが研究活動とその成果の視認性向上において十分な効果を持つことを実証できれば、研究者にとっての文献公開への重要な誘因となる

2年間の成果

- 「Zoological Science」掲載論文のうち、北海道大学、筑波大学、京都大学所属研究者の発表文献をそれぞれの機関リポジトリにあわせて471論文登録した。
- リポジトリアクセスログの詳細分析
- 被利用記録(アクセスログ)分析のためのデータ整理、ツール開発
- 被利用記録と被引用記録との関連性の分析に着手

今後、本格的な分析を行う(科研)

再考

1. リポジトリは、研究成果を広く、研究者に届けるのか
2. 良い論文は、ダウンロードされ続けるのか
3. 読めなかった論文を獲得できるしくみなのか
4. 研究者にとって、リポジトリは「必要なツール」となり得るのか。

基本的事項

Zoological Science 3,281論文(1984-2008)

1,718 BioOne. 2

内 オ-プンアクセス 1149

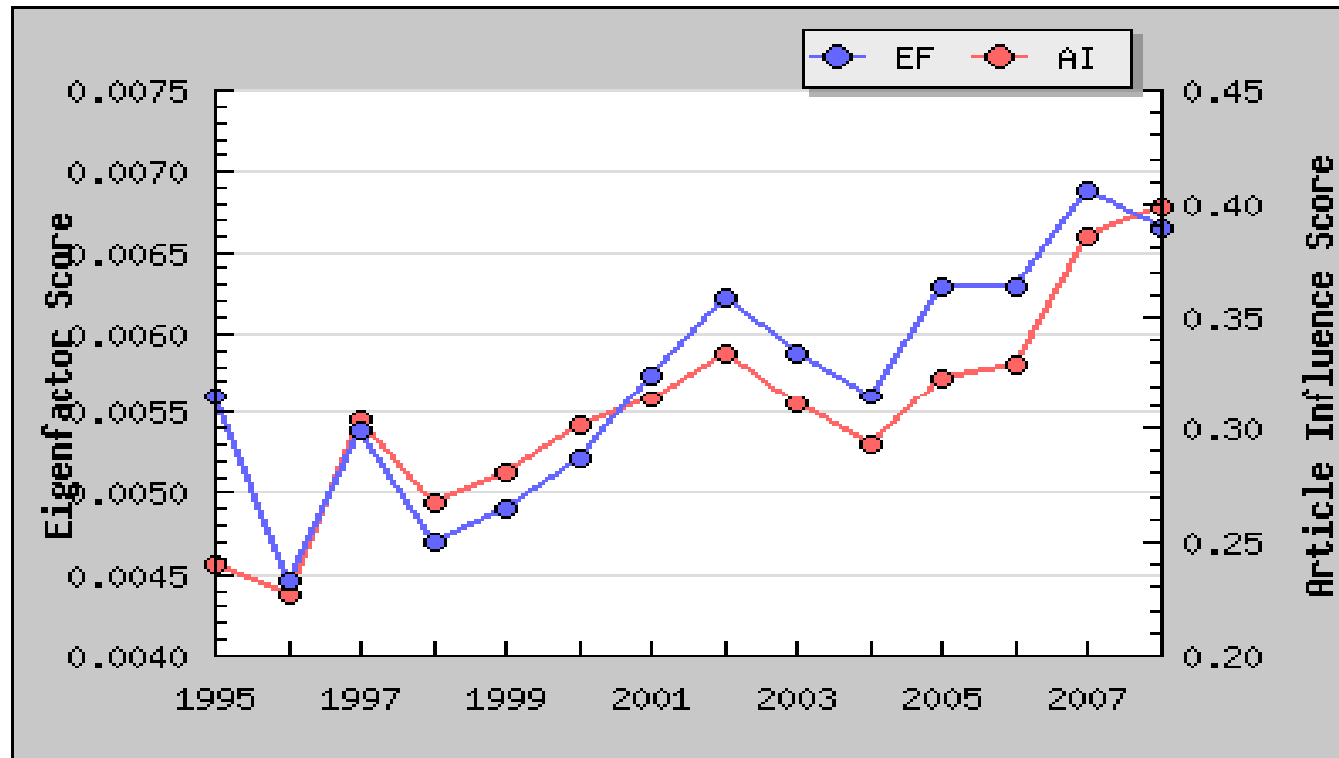
1,376 Jstage(現在はClose)

171 IR

基本的事項

- **Current:** May 2010 : Volume 27 Issue 5
- **BioOne Member Since:** 2007
- **Frequency:** Monthly
- **Impact Factor:** 1.100
- **2008 ISI Journal Citation Reports® Rankings:**
60/125 - Zoology
- **Eigenfactor™:** [Zoological Science](#)

ZS EigenFactor



IR、Jstageそして被引用国

順位	機関リポジトリでのアクセス 上位20位		Jstage でのアクセス数 (リポジトリ登録有)		ISIでの被引用数 (全論文)	
	国名	アクセス数	国名	アクセス数	国名	アクセス数
1	USA	2,388	Japan	2,052	Japan	3,768
2	Japan	993	Peoples R China	998	USA	1,819
3	Germany	183	USA	851	Peoples R China	544
4	India	183	EU	576	Germany	437
5	Russia	157	Indonesia	386	France	371
6	Indonesia	153	India	287	Canada	317
7	Italy	151	Thailand	190	England	307
8	Australia	150	South Korea	184	Italy	298
9	England	147	Taiwan	182	Taiwan	282
10	Brazil	117	Italy	178	Spain	265

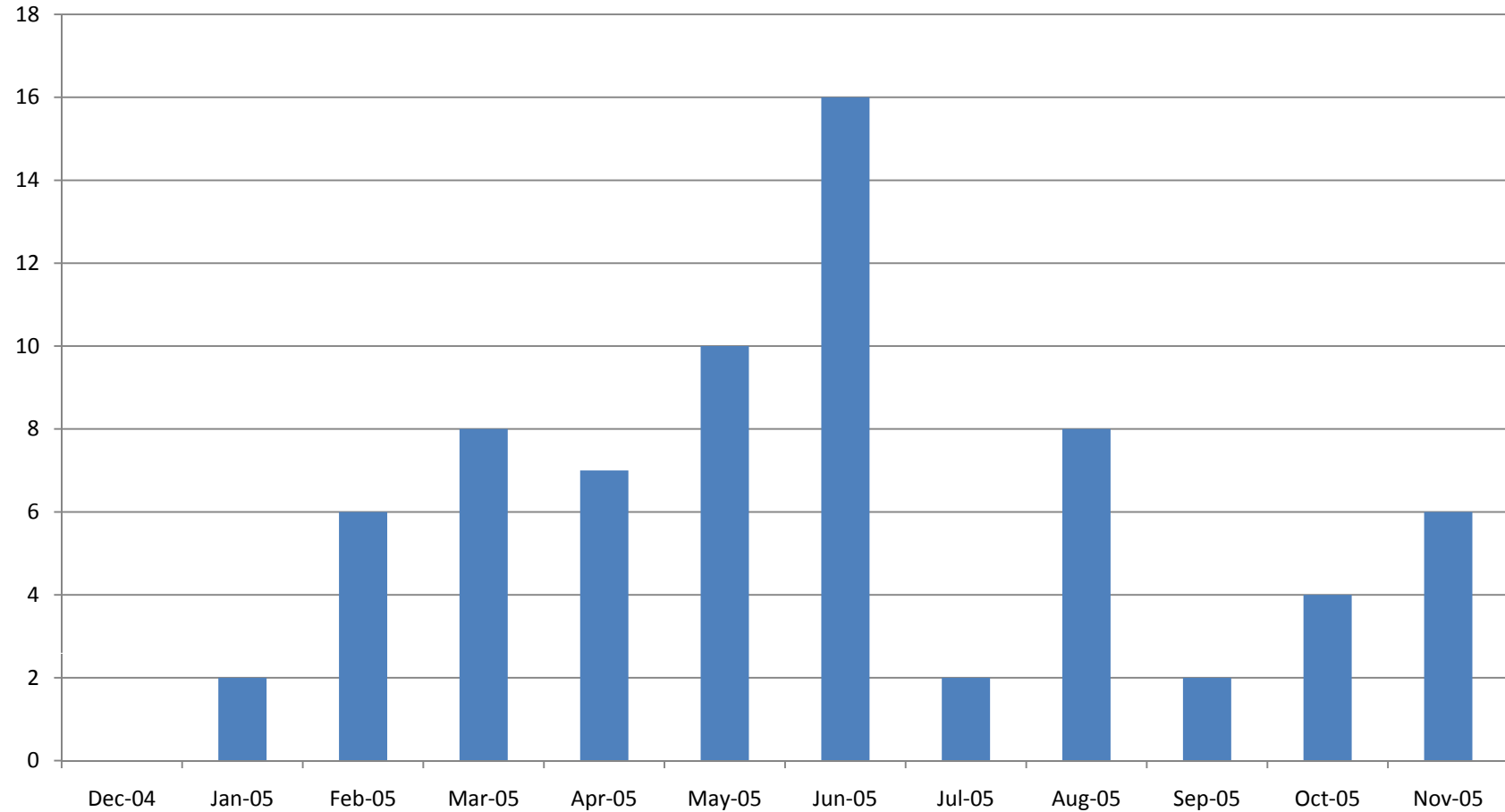
Jstageは健在？

Jstage搭載文献のアクセス数(2008-2009)

	リポジトリ登録有 (N=126)	リポジトリ登録無 (N=1,192)
平均値	57.9	51.6
中央値	50.5	36
最大値	184	935
最小値	8	0

HINARI (Zoological Science)

アクセス回数



Userとは何か

- JstageでZSを閲覧していた集団
 - BioOne.2購読者
 - そしてIR User
- * 電子ジャーナルをどこでどのように公開していたかが、2010年段階では読者を引っ張っている

- 2010年6月段階では、IRは研究者にとって
必須なツールになりえていない
- 各ジャーナルによってIRの使われ方は異なる
- 研究者は図書館の努力によって、商業出版社
の快適な環境にあり、論文を探すために
必死ではない。
- IRを拡大させるためには、購読を止めるのか？

今後の課題

- 対象論文数を増加させる
- IRがジャーナル購読に大きな影響を与えない現況を、研究者の研究活動といった側面から、丁寧に分析する必要性がある。
→ ツールになっていないということ、IRユーザーと、BioOne購読者、そしてJstageユーザーとは何か
- 大学図書館は、今までの分析結果を鑑みて、今後IRを図書館側としてどう主導するかを学術情報の拡大という見地から捉えなおす